

【別紙様式 I】 令和7年度 学校評価報告書

学校名 厚木市立林中学校

厚木市教育委員会の基本目標

- 1 自ら学び、鍛え、未来を拓き、夢や可能性に挑み続ける力の育成【挑戦】
- 2 自他の命や豊かな感性を大切に、多様性を認めながら共に生きていく力の育成【共生】
- 3 変化する社会に自ら進んで関わり、人々と協働してより良い社会を創る力の育成【創造】

校長名 松本 恵

学校教育目標

学校経営の方針

共生…互いを尊重し、共に支え合う  
 自律…自ら考え、判断、決定、行動する  
 創造…豊かな発想をもち、未来を切り拓く

(1)豊かな人間性をはぐくむ「心の教育」の充実を図る。(2)個に応じた指導とインクルーシブ教育を推進する。(3)学習指導の工夫改善を図り、すべての生徒に「確かな学力と体力」を身に付けさせる。(4)家庭・地域との連携と信頼を深め、社会に開かれた学校、信頼される学校づくりを目指す。(5)全教職員による学校経営参画のもと、相互の連携とチーム力を生かした指導体制を維持・向上させる。

今年度の重点目標

(1)力あふれる教育 (2)友だちつながる教育 (3)学び深まる教育

評価項目・指標等	基本目標との関連	具体的な取組	成果と課題	次年度への具体的な改善策
学力向上に向けた取組に関する評価	1	明確な学習評価規準を提示したわかりやすい授業づくりと指導と評価の一体化の工夫	数年前から継続している授業研究会を年3回行い、教師の指導力向上の機会へつなげた。特に研究協議には代表生徒に参加してもらい、生徒と共にわかりやすい授業をつくる一助とした。また、単元ごとに評価をするしくみが確立し、教師と生徒の双方が生徒自身の習熟度を把握し、分かりやすい授業を目指すことができた。 一方で、「主体的に家庭学習に取り組んでいない」と回答している家庭もあり、課題として挙げられる。学習環境する意欲や、学習方法がわからないなどの理由から、主体的に家で学習できなていないと考えられる。	ユニバーサルデザインやインクルーシブ教育の視点から生徒一人一人の習熟度を適切にみとる。また、単元ごとの学習の過程を重視した評価を行う。日々の授業の中で、生徒は学習のねらいや評価規準を意識しながら、自分なりに関心をもてる教科や内容を見つけようとしています。生徒一人一人の学びを丁寧に見守り、評価が次の学びにつながるよう、授業や課題の改善を進めていく。
情緒面の育成に向けた取組に関する評価	1・2・3	生徒と教師との人間関係づくりと教育相談の充実 家庭、地域との連携 いじめ防止に向けての取組	生徒にとって楽しく学校生活を送ることが一番大切だと捉え、生徒同士の人間関係を築くよう努め、生徒と教師のコミュニケーションが図れるよう教育相談を充実させた。 欠席しがちな生徒へは、各々のケースに応じて保護者と密に連携を図りながら、スモールステップで支援を行った。 課題として、長欠生徒の多さが挙げられるので、次年度は未然防止に取り組みたい。	楽しく学校生活を送れていない生徒に目を向け、誰もが安心安全で、楽しいと思える学校づくりを行っていく。 そのため、教師と一人一人の生徒との信頼関係の構築が重要な課題である。定期的な教育相談だけでなく、教師やスクールカウンセラー、こころスマイル支援員に気軽に相談できる関係づくり、環境づくりを行う。また、相談室、スタディールーム、パレット(学習支援)室等を積極的に活用し、個々の生徒に幅広く対応し、不登校を未然に防止する。

ESD(持続可能な社会のつくり手を育む教育)と総合的な学習(課題探究学習)、学校行事、生徒会活動に関する評価	2・3	総合的な学習の時間(課題探究学習)、生徒会活動や学校行事を通して自主・自立の精神に満ちた実行力責任感のある生徒を育成する	課題探究活動は、今年度で丸3年の取り組みであったが、多くの生徒が課題を見出し、その課題を解決するために主体的に取り組むことができた。生徒会活動や学校行事も活発に運営し、自治的活動の意義を理解させ、活動することができた。学校ホームページやブログについては、個人情報の関係で掲出の仕方を制限せざるを得ないことが多くなり、昨年度よりかなり後退してしまった。	課題探究活動のより一層の充実を目指し学校行事については、来年度は創立50周年の節目なので、多くの機会で保護者が参観できる形を模索し実行する。全ての生徒が林中学校の一員であることを自覚し、一人一人が生徒会活動や学級活動に主体的に取り組むことができるような工夫を行っていきたい。
今年度の学校関係者評価委員会からの意見				
生徒の学校行事、生徒会活動への取り組み姿勢がよく、学校生活の規範意識も高い。総合的な学習の時間における課題探究学習でさらに地域素材(人、物、歴史、文化、行事など)も教育活動に取り入れられている。				
今年度の学校経営のまとめ・次年度への改善の方針				
生徒による学校評価では、「学校へ来るのが楽しい」生徒が90%近くにまで数値が上がっている。しかし、残り10%ほどの「あまり楽しくない」生徒にも目を向け、誰もが安心安全で楽しいと思える学校づくりをめざしたい。また、主体性をもって「自ら考え、判断、決定し、行動する生徒の育成」を第一目標に教育活動を進めたい。生徒・教職員が「当事者意識」と「自律性」を重視した集団づくりを目指していく。				